

荷造りの背後で「そう言えば、昔は一緒に行こうって言ったね」とパートナーが言う。振り払うように「これからの建築の道標をシルクロードに探しに行く」とかみ合わないことを言う。そして古の道の起点長安西門を目前にしたとき、家族への掲げた旗が少し大きすぎたかもしれないと思った。

西安(昔の長安)は中国歴代皇帝の半分以上が都とし、その期間は千年を超える。ここに倣い平安京(京都)がつくられるなど日本文化への影響も大きい。旅の目的の一つに「この地で歴史の息吹に触れる」ことがあった。雨量が少ない西安だが滞在2日間は雨。さらに国慶節と中秋節が重なる大連休にあたり、渋滞と混雑と雨の中に14億人の熱気を感じることになる。西安も中国他都市と同じように共同住宅建設ラッシュだ。現地ガイドがそれを「マウスの奴隷の巣がつくられている」と言っていたことが耳に残った。

1400年前、玄奘三蔵が長安から2年間かかった距離を、天山山脈を眼下に眺め3時間半で一気に新疆ウイグル自治区ウルムチに飛ぶ。ここは8年前に騒乱が起き、民族問題が表面化し治安が心配だったが、共産国でイスラム圏であるこの地での暮らし振りが知りたかった。

そこはさまざまな民族が居住する多民族社会だった。バザールでは周辺特産物が色鮮やかに並び、聞いたことのない言葉が飛び交う。東西入り混じりさまざまな人が行きかい、人々の笑顔が眩しい。しかしバザールでもホテル・レストランでも、入場の際は金属探知機を潜りボディチェックがある。国慶節のお祭りムードが夜間まで続く中、滞在ホテル周辺は警察車両が



巨大風力発電地帯



トルファンの住宅建築

海外・中国
中国シルクロードに行く
砂漠に蜃気楼を見た



敦煌での蜃気楼

遠藤知世吉・建築設計工房



ウルムチのバザール

200mほどおきに停車している。それをまち行く人がさほど気にしていない様子だったので、まちを歩いてみることにした。少し緊張し、胸のパスポートを確認する。そして検問の横を通り明るい方向を目指した。街角でアルコール45度の酒を買った。

翌朝ウルムチから高速道路で200kmほど離れたオアシス都市トルファンに向う。途中、大規模風力発電地帯でその数に度肝を抜かれ、途中下車の塩湖で風の冷たさに震えた。この高速道も電線も、遙か遠く東シナ海に面する上海へと続くと言うから驚きだ。この地は地球上で海から最も離れている地域とされている。トルファンでは、雨が滅多に降らないため、今でも天山山脈の雪解け水を800年前につくられたカレーズ(地下水路)が運んでいる。道路に沿って戸建住宅建築現場が続く。これは国が70%補助した建築だそうで、オアシスへの定住政策を進めている。多くは2階までが住居、3階部は干し葡萄の乾燥室になっているRC造のブロック壁の農家住宅である。

トルファンから新幹線に類似した高速鉄道で敦煌へ行く。敦煌は長安から西に向かう分岐点。ここから北・西・南へと道が分かれる。漠高窟などの壁画が有名だ。この地で1000年にも渡り人々に仏画を描かせたのは、旅の過酷さだろう。その砂漠で蜃気楼を見た。それは渇ききった旅人を誘うように、地平線の向こうに川が流れ樹木が続くさまだった。

その昔、多くのキャラバンはシルクロード全域を移動したのではないと言う。次のオアシスで別のキャラバンに荷物を渡す、その繰り返しが東洋と西洋の文化をつないだ。その地域をよく知る各区分専門のキャラバンがあった。欲を出し無理に遠出をすると二度と戻れなくなる、砂漠はそんな危険性を持つ。それは砂漠だけではないだろう。「今、キャラバン FUKUSHIMA が進む道に誤りはないか」しっかり歩み、次の世代のキャラバンに確実に手渡したい。福島に戻りそう思った。

